

データ基盤課活動実績（令和3年度）

6NCの資源・情報を集約し、専門性を生かしつつ有機的に連携するための情報基盤を構築するとともに、研究におけるICT活用支援を行っている。6NCが有する診療情報を統合的に利活用するプラットフォームの構築、超高速ネットワークによる相互接続および既存の疾患レジストリとの連携をおこない、世界最高水準の研究開発・医療に向けたイノベーション創出支援に取り組んでいる。

1. JH運用のための情報基盤の構築

- 地理的に離れた各NCのJH職員のためのクラウド業務環境の構築および情報機器の整備
- セキュアなリモートワーク環境及びオンライン会議環境の構築
- セキュリティ情報共有のためのJH Security Alertを運用中

2. JH Super Highwayの構築と研究推進のためのクラウド環境構築支援

- 全ゲノム解析や、医療ビッグデータに対応するために、JH Super Highwayを構築
- 6NC・9施設 のネットワークを10Gbpsの速度で SINET接続完了
- クラウド環境を利用した、6NC抗体調査の電子調査票作成と運用支援を実施

3. 6NCの研究者が参画するレジストリ情報の収集

- 6NCの担当者を通じて各NCが構築するレジストリの情報収集
- レジストリの主任研究者とコンタクト
- CIN中央支援事業レジストリ調査（杉浦班・厚労省）への情報提供



4. 6NC電子カルテ統合データベース(6NC-EHRs)の構築と運用ルールの検討

- 6NCの専門性の高い疾患の疾患横断的な研究への活用や、コントロール群としても活用可能なデータベースを目指して検討
- 電子カルテ統合データベース構築研究である、JASPEHR研究(JH研究:波多野班)の匿名化されたデータを、二次利用として各NCの臨床研究に活用するスキームを検討し構築を開始
 - データ登録状況:4NC・62万人分のデータ(2022年4月現在)
- データ利用希望者は新たに研究計画を策定し、倫理審査を別途受審することとし、データ利用に際してはJHIに利用を申請し、6NC理事長会議のもとで利活用をすすめる運用ルールの申し合わせを策定
- システム改修による収集の効率化とデータクリーニングの実施
- リモートアクセス環境の構築
- 6NC-EHRsを利用した小規模のプロトタイプ的研究を開始

5. 活動の方向性のための各NCからの意見集約と情報共有

- 各JH研究班にデータ基盤課の活動に対する要望を聴取し活動計画に反映
 - データ基盤課の取り組みについて、6NCのカウンターパートと情報共有し、情報共有することで、JHと6NCが有機的に連携
 - 2021年度はデータ基盤課6NCカウンターパート連絡会議を12回開催
-

6NC-EHRsの運用と利活用の概要

